

2026年6月5日

## 2026年度 年度計画に伴う組織体制の改訂について

代表取締役社長 石和田 雄二

新年度がスタートして2ヶ月強、前期の決算も終え5月末に株主総会も終了しました。技術研修中の4月入社の新入社員111名も研修の仕上げである共同制作に入っており、月末の発表会を経て来月には配属先に移り、各本部下でOJT研修に入ることになる。暫定版の本年度の組織体制は4月に発表しているが、正式版の年度計画に伴う年度上期の新組織体制を見直したので、これを基に席替え移動も想定して、本格的に走り始める。

### 1. 本年度の経営計画について

前期のトランプ関税の影響や円安による物価急上昇の不透明感に比べれば、今期の景況は、ホルムズ海峡封鎖に伴う「油断」による燃料原料不足や物価上昇懸念はあるものの、総じて安定している様に見える。5月内閣府発表の1～3月期の国内総生産（GDP）の速報値は、年率換算で実質2.1%増、自動車輸出の回復に加え設備投資や個人消費も堅調に推移、中東情勢は十分織り込まれてない段階ではあるが現状の景況感は悪くない。ITサービス面で見ると、前年までDXの延長でクラウド化やモダナイの延長上で活況を呈していたが、AI能力の急速な高度化とAI-Agent元年とも言われる急速な利用技術の進展によってAI関連の先進技術サービスの需要増が期待される。その反面、顧客が自ら取組み、大手ITベンダーも競ってITサービスへのAI導入を進めた結果、抜本的SIサービスの生産性向上が想定され、AI活用による従来型顧客システムが不要になる「Saasの死」の予想もあり、日本のITサービス特有の下請構造下位層のITサービス需要が急速に縮小、ITサービス業界に向けて大変革の波が迫ってきているのが現状だ。AI急進展が当社業績にプラスを齎す反面、業界に対する将来リスクも現実化して来る。ITサービスは生まれ変わるにしても、旧来型サービスに止まる限り行詰まるのは明白、先進技術を基礎研究やCatch Upから顧客対応の利用技術開発に、AIのサービス対象をロボットやシステム開発など新たな社会的価値を生む具体的対象に変える必要がある。

日本の経済状況も、国内消費に繋がらぬ海外資金による株価上昇が続いても、物価高騰がこれから本格化することと人気取り財政政策が一段と日本売りを呼び長期金利上昇と円安を招く結果、国内生産も設備投資も消費も低迷、景気後退入りする可能性が高い。当社のITサービスの転換コストも考えると、年度経営環境を甘く見る訳にはゆかない。本年度も当社は、成長路線を走り続けるが、全般的に旧来型のITサービスが減る中で新技術案件失注や赤字案件を抱え、政府ファンドの国研終了、自動車産業の経費削減や当社の技術転換への技術教育費用増も考え、経費・利益面では抑制基調を維持して行く。

今期は、3ヵ年計画の中間年、3ヵ年計画の目標値、生産（≒売上）100億円超、平均年齢34歳以下、技術者超1000名、専門技術・先進技術資格取得者300名超を目標に走っているが、昨年実績の生産86億5千万円、情報処理資格の専門技術取得者89名、応用技術取得者254名、4月1日新人を加えた技術者910人（平均年齢33歳）である。先進技術資格は、これから本格的に増やしてゆくが、今後2年間で達成可能な状況だ。3ヵ年計画の本来の狙いは、ITサービス業界が大きく変わる41期以降の安定した高度成長にあり、その意味で今期の成長は対前年度8%で十分、次世代の技術導入を前提に先進技術面の底上げと管理層の育成、サービス能力の質的量的拡大を主眼に舵取りする。

今期の年度計画計数目標	：	売上高	93億6千万円	対前年度比	8.2%増
		生産高	94億2千万円	同	8.8%増
		営業利益	7億6千万円	売上比	8.1%増
		経常利益	8億円	生産比	8.5%増
		来期新卒採用	国内110名、海外20名	合計	130名
		技術人材目標	退職者50名中途入社15名	で技術者	910名

年度を通じた定性目標は、「仕事を通じたAI活用を軸に先進AI利用技術力の強化」、当社の資本関係先3社、NTTデータ、トヨタシステムズ、BIPROGYの場を借りて自助努力をベースに先進技術案件に挑戦、現場課題に学びつつ、技術力を高めてゆく。

年度目標を月別四半期別に展開、それを月々の実績ベースに当月翌月、四半期別、更に上期及び年度の着地予想を行ってその差異の原因を分析、最終目標達成に向けた現在地を確認、今後の予想される課題問題を解決しながら、全体としての目標達成を実現する。同時に、技術導入と人材育成の為に、経営と各部門の定例会議を通じて過去を振り返り、業務案件の選択と契約、体制や管理、技術的課題と解決等への改善努力を続けてゆく。

添付資料に、今期39期の年度計画の月別・四半期別計画値と実績値並びにその年間の推移グラフを生産/利益の月間実績と累積値、その前期実績との比較として載せてある。これは、5月までの実績が反映されており、生産に関しては、4月5月とも上振れしているが、5月の営業利益が落込んでいる。これは、地方税等の納付を計画が織り込んでなかった結果であるが、そうであれば、7月には利益が回復して行くとの見通しが立つ。こうした差異分析と現場業務の改善努力への契機と出来る所に計画の存在意義がある。

尚、今期の年度計画は、修正3ヵ年計画の中間年として位置づけられて存在するので、その修正3ヵ年計画も同時に提示しておく。修正の基本は、前期実績の反映であるが、3ヵ年計画も達成する目標が重要で、これを動かさずAI急進などの現状の環境変化を織込み、実現可能性を重視して今期来期の年度目標の調整をしている。参照して下さい。

## 2. 年度組織体制について

上述の年度計画を踏まえ、既に社内提示した新年度の上期組織体制を部分改訂した。新年度の正式組織体制として責任者を明確化、必要な座席移動や部門間連携の強化も含め年度の指揮系列を再設定、全社各部門の潜在能力を引出し業績の向上に繋げる。

新年度組織体制の大枠構成と役職、役職に対応する主要メンバーの再配置を行った。大枠は、前期を踏襲しているが、以下の狙いを込めている。

- ① 今期中盤以降の経営環境の悪化を想定、前半は案件確保で手堅くスタートする。
  - ② 事業承継の段階的实施で 41 期以降の安定成長と第二の創業へ道筋をつける。
  - ③ 今期重点目標の AI 活用の基盤整備と人材育成、増収増益を達成する。
  - ④ 3 ヶ年計画中間年として管理層の厚みへ向けて若手の抜擢を図る。
  - ⑤ ATRD 部門の企業経営上の役割を重視、将来に向けた方向性を明確にする。
  - ⑥ 当社本業の中核である本社 ITSS の拡大成長へ向け部門組織体制の再整備を行う。
  - ⑦ 代表者の役割分担明確化と経営管理の自律化で次期管理本部への下地を創る。
- 等々を考えて、組織体制の見直しを実施、新組織体制の大枠を創った。

41 期以降の安定成長には、経営環境の変化を越えて信用を発展させることが必要で、その為には従来並みの成長路線を維持すると共に環境変化の流れに自ら乗ることだ。我々の業界そのものが AI 主導で変わろうとしている今、環境変化への適応とは当社の技術と事業の軸を AI 中心に変えることと世代交代に向けた若手の登用が必要条件だ。若手抜擢への布石は ATRD 統括、研究開発、AI ネーティブ、Physical AI の各本部管理体制に次期責任者を配したのと本社支社の ITSS 部門でも本部の管理層に若手を登用、一方で、AI ネーティブ時代の IT サービスを肌で感じて貰う為に NTT データの AI-NEC <AI 主導エンジニアリングセンター>参加に現場の精鋭を選別、何れ部門を背負って貰う人材に AI を実践的に学ばせることとした。将来の活躍を期待しての抜擢である。しかし、今期は、経営環境の悪化が見込まれる中、当社にとって重要な将来への出発の年、顧客信用と成長路線維持は絶対条件、先進技術部門も、本社名古屋大阪支社の ITS サービス部門の事業責任者にも経営目標の数値を確実に出して貰う必要がある。挑戦の中で経営と共に成果を出せる業務と要員管理の経験のある旧管理者を据えた。ATRD には急速な環境変化の下、当社の差別化技術の知識と社内及び顧客対応への経験豊かな副社長コンビ、本社 ITSS には、経営企画率いる私の下で各部門の業務に精通、部内人材の特性を熟知したベテランを配し、責任を自覚して目標達成に向って貰う。特に先進研究開発の月島では、今の環境急変を考えると受動姿勢で未来は拓けない。防衛省の VSLAM 研究終了で目標を失う人材をどう活用するのか、サービス側に移すか次のファンドに繋げるまで待つのか、将来に向けた人材の活用は当面の重要課題だ。

先進技術 3 部門の将来方向に触れれば、AI ネーティブは当社全体の先進基盤技術本部となり、Physical AI に関わるサービスと研究開発の 2 本部は、AI の技術進化が今後 10 年は続くとして、サービス側は先進技術サービス事業部として顧客の先進技術要求に応える事業部として自立、研究開発側は明快な製品目標を設定、販売ビジネス視野に時期限定で日夜実用化研究に専念する研究開発組織となる。今はその前の段階だ。

会社の在り方で一番重要なのは、私の退任後、新体制で成立すべき主要組織の二つ、経営管理本部と当社の本業である顧客サービス事業の ITSS 技術統括の管理体制だ。前者は、人事にしても経理や組織改革にしても、採用や賃金、昇進昇格や人材育成、経営計画や機器導入活用にしても、不断の環境変化の中で仕事を見直す必要がある。冷静に見て今の能力で理想通りに進まぬ無理な仕事や役に立たない、立たなくなった無駄な仕事が沢山ある。誰に何の為に役立つ仕事なのか、よく考えて仕事をしよう。形だけの組織でなく、当社に必要な組織体制と仕事の在り方を考える機会としたい。自ら課題を定義、それを計画的に経営と共に考える提案型組織に変わる必要がある。

後者の本社 ITSS 技術統括のサービス現場も今や 300 名超の技術人材を抱え、その育成や業務の確保と要員割当てやプロジェクト管理、問題の予測と対応、最終責任を担い管理する人材、使命感を持って未来の課題に挑戦、結果を出す指導者が必要である。AI 時代の ITSS 事業は先進技術知識、時代を拓く構想力と指導性を持つ必要がある。業務に人を割振るだけの管理では課題解決は不可能、信用が剥落し人が辞めてゆく。50 前後で最新技術も顧客ビジネスの課題も解る人間性豊かな指導者が欲しいが、ないものねだりより成長する企業は管理層のチーム力で機能を創ってゆくのがベストだ。当面、私とベテラン管理と営業担当の事業推進チームだが、中堅管理者中心に次世代の先進技術に馴染んだ専門家も交え、課題に学びながら指導者層を育てて行きたい。現時点で全体を俯瞰、部門間調整の出来る人はいないので暫く私が見ることとする。私の残された時間で何とかこの二つの組織指導者を実践の場を通じ育てて行きたい。

年度当初から現場責任者に本部内組織や役職人事、要員移動等の意見を聴いて来た。組織体制細部の検討事項は、いろいろあるが、既述が主要な考慮点、その波及的影響も含め全体調整を図ったのが添付の年度上期組織体制図。これを最終広報版とする。年度内業務も本格的に動き始めており、組織体制の在り方も走りながら調整する時期だ。環境変化や業績推移によって 10 月に見直すか、年度上期の組織体制はこれで FIX する。各部門相互間の業務上の支援協力や調整は各階層の管理者会議によってこれを行う。今回担当になる部門責任者は現場に移動、未来を描く仲間達の先頭に立ってほしい。6 月新人配属に伴う大規模な社内の組織配置移動は、改めて人事と相談して決める。3 ヶ年計画の目標達成で可能性豊かな未来を拓きたい。一緒に頑張りましょう。(了)

# 第39期年度計画（計画値）

単位：M（百万円）

1Q計画	4月	5月	6月	計	(平均)
生産	670	690	740	2100	700
経費	660	680	700	2040	680
営業損益	10	10	40	60	20
2Q計画	7月	8月	9月	計	(平均)
生産	720	720	780	2220	740
経費	680	670	720	2070	690
営業損益	40	50	60	150	50
3Q計画	10月	11月	12月	計	(平均)
生産	810	810	900	2520	840
経費	720	720	780	2220	740
営業損益	90	90	120	300	100
4Q計画	1月	2月	3月	計	(平均)
生産	810	840	930	2580	860
経費	720	750	810	2280	760
営業損益	90	90	120	300	100

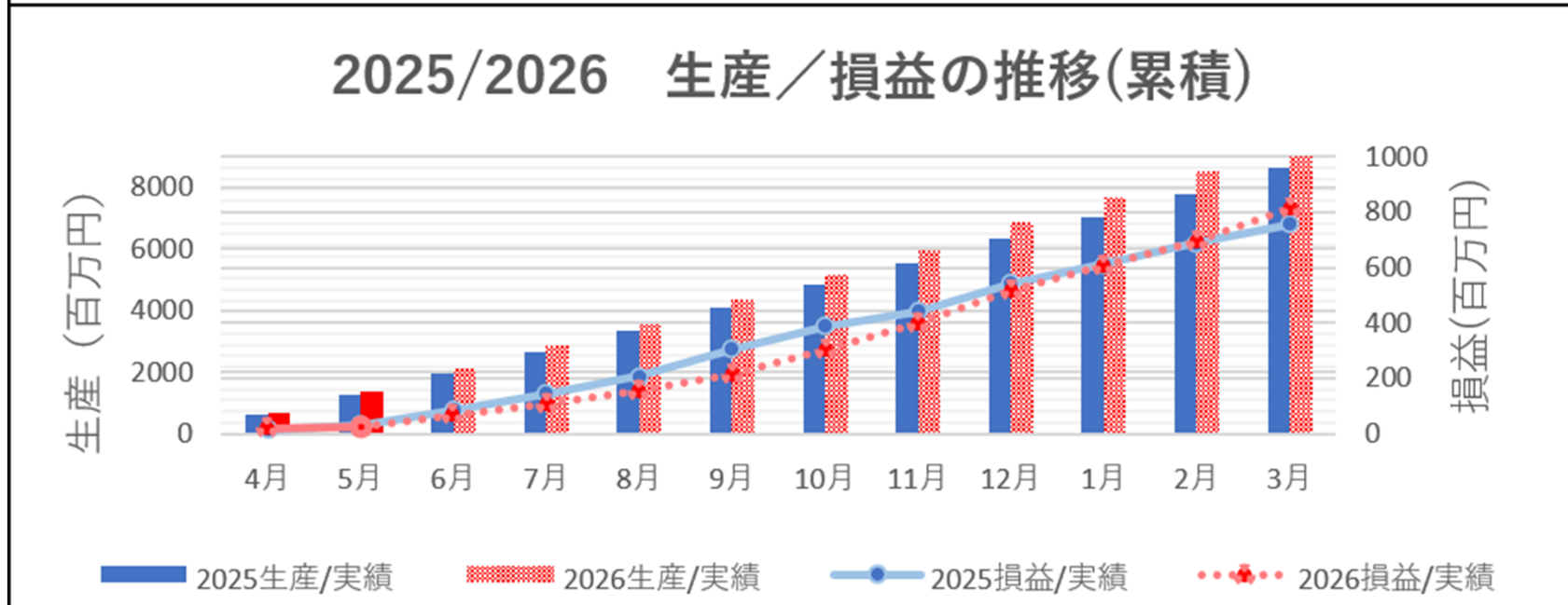
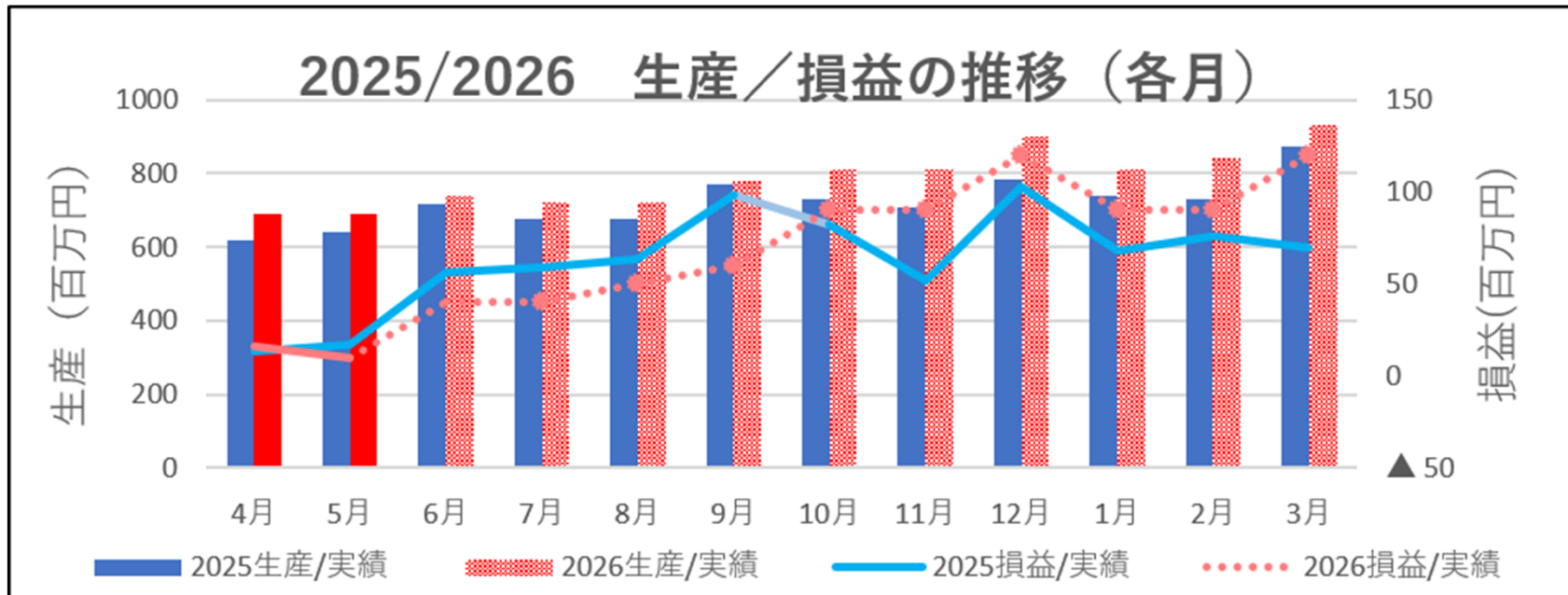
	<生産>	<経費>	<営業損益>	<経常損益>
上期計	4320	4110	210	
下期計	5100	4500	600	
年度計	9420	8610	810	

# 第39期年度計画（各月実績/計画値）

単位：M（百万円）

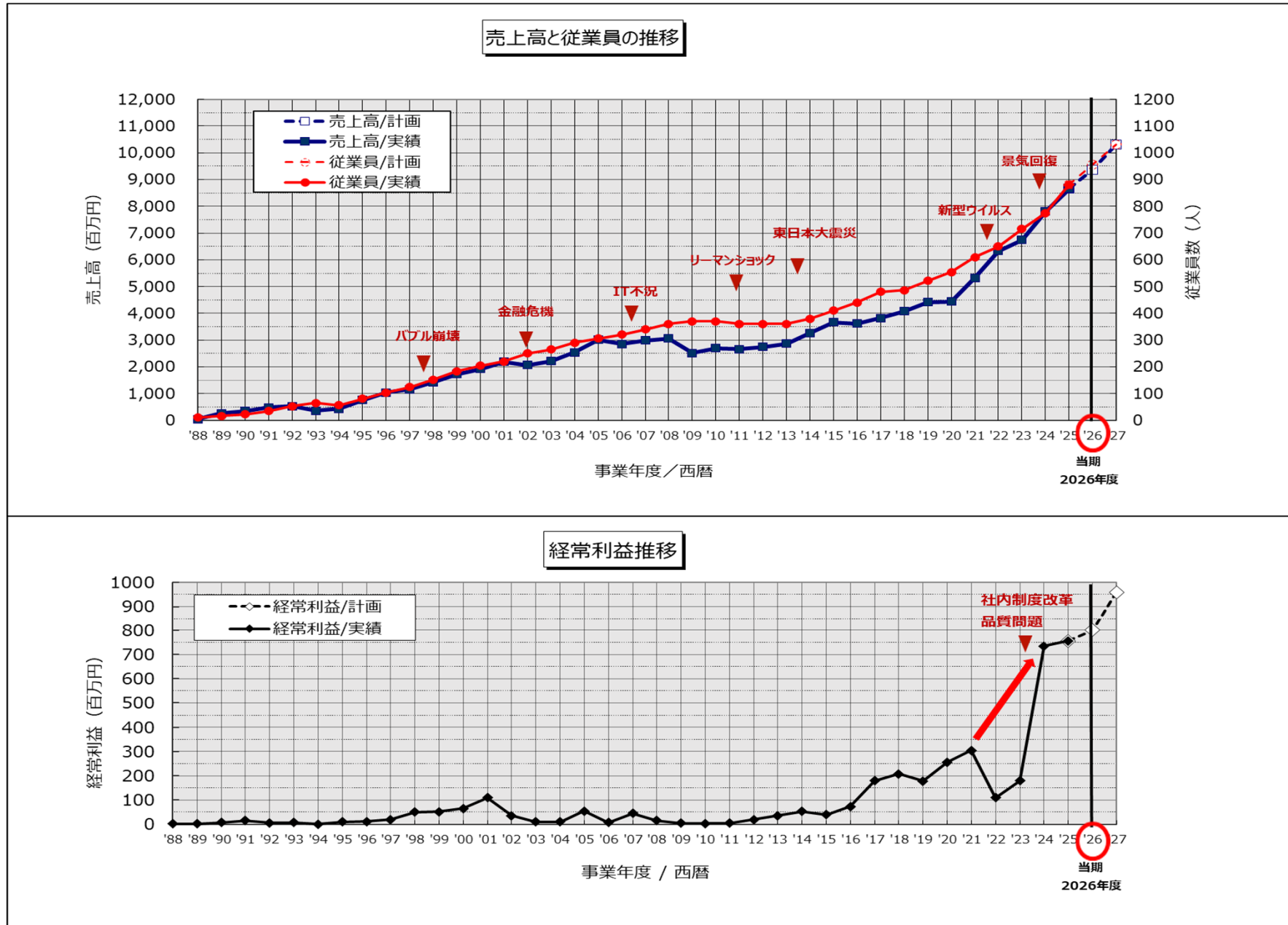
1Q実績/計画	4月(実績)	5月	6月	計	(平均)
生産	692	690	740	2122	707
経費	676	687	700	2063	688
営業損益	16	3	40	59	20
2Q計画	7月	8月	9月	計	(平均)
生産	720	720	780	2220	740
経費	680	670	720	2070	690
営業損益	40	50	60	150	50
3Q計画	10月	11月	12月	計	(平均)
生産	810	810	900	2520	840
経費	720	720	780	2220	740
営業損益	90	90	120	300	100
4Q計画	1月	2月	3月	計	(平均)
生産	810	840	930	2580	860
経費	720	750	810	2280	760
営業損益	90	90	120	300	100

	<生産>	<経費>	<営業損益>	<経常損益>
上期計	4342	4133	209	
下期計	5100	4500	600	
年度計	9442	8633	809	



# 新基盤整備3カ年計画

期 年月期	成長基盤整備3カ年計画			調整準備年	新基盤整備3カ年計画		
	1年目	2年目	3年目		1年目/前期	2年目/当期	3年目
	第34期 2021年度	第35期 2022年度	第36期 2023年度		第37期 2024年度	第38期 2025年度	第39期 2026年度
売上高(M円)	5,326	6,332	6,738	7,810	8,653	9,360	10,320
対前年増加率	19.8%	18.9%	6.4%	15.9%	10.8%	8.2%	10.3%
サービス生産高(M円)	5,334	6,333	6,719	7,800	8,657	9,420	10,400
対前年増加率	19.9%	18.7%	6.1%	16.1%	11.0%	8.8%	10.4%
営業利益 (M円)	135	56	158	713	726	760	900
営業外損益 (M円)	169	53	21	20	30	40	60
経常利益(M円)	304	110	180	734	756	800	960
売上比	5.7%	1.7%	2.7%	9.4%	8.7%	8.5%	9.3%
R&D投資(M円)	20	35	16	35	55	80	100
採用計画							
新卒採用	100	105	107	125	124	113	110
転職/中途	10	40/0	50/3	50/10	50/10	50/15	45/20
<<期首>> 技術者数	580	620	675	745	840	910	980
[従業員数]	[610]	[650]	[715]	[775]	[881]	[955]	[1,030]
生産性/人年(万円)	875	970	940	1008	982	984	1009
賞与水準(ヵ月) (夏/冬)	4.5 (2.0/2.5)	4.6 (2.0/2.6)	4.4 (2.0/2.4)	4.5 (2.0/2.5)	4.6 (2.1/2.5)	4.8 (2.2/2.6)	5.0 (2.4/2.6)
主たる基盤整備	組織体系	役割体系	技術資格	人事制度	組織改革	新技術政策	提案型営業へ
年度目標	成長軌道	拡大成長再生産	増収増益確保	成長路線復帰	社長交代	AI推進強化	計画目標達成
参考	コロナ禍	品質問題解決	コロナ禍収束	ITSサービス強化	物価対応賃上	段階的若手登用	第2の創業期へ



<b>経営管理本部</b> 参与 西島 昭佳 本部長 石和 雄二、副本部長 川添 浩史（全統）、小山 紀之（事業管理、人事教育、CIT） 本部長補佐 太田 ゆう子（経理、財務）、岩崎 伸一（法務、監査）、椎名 千恵（福利厚生、TJK委員）	<b>事業統括本部</b> 顧問 橋本 博文、参与 石和 雄二、本部長 川添 浩史、副本部長 川村 英二、渡部 憲太郎 本部長補佐 石森 進<ATRD>、古性 和義<ITSS、大阪支社連携>、下野 修<名古屋>、垣内 成介<大阪>
--	--

<b>経営企画部</b> 部長 石和 雄二、副部長 小山 紀之、部長補佐 野口 和義 要員数 5	<b>総務経理部</b> 部長 草野 和寛、副部長 上沢 啓起 部長補佐 深澤 陵 要員数 8	<b>人事教育部</b> 部長 安田 明彦 部長補佐 阿部 勇気、中村 伸一 要員数 15	<b>CIT部</b> 部長 岩崎 絵里子 部長補佐 黄海 拓也 要員数 8	<b>営業管理室</b> <営業管理課 協業推進担当> 室長 渡部 憲太郎 GM 森崎 浩史、伊藤 健一、安孫子 智浩、萩原 誠	<b>本社ITSS事業推進部</b> 部長 川添 浩史 副部長 渡邊 威文、大井 一水、坂本 一彦 要員数 4	<b>本社ITSS事業推進部</b> 部長 川添 浩史 副部長 渡邊 威文、大井 一水、坂本 一彦 要員数 17	<b>☆支社 事業推進</b> 名古屋支社 事業推進担当 川添 浩史 事業部長 下野 修 営業部長 山家 篤 大阪支社 事業推進担当 石和 雄二 事業部長 潘 虹 副事業部長 橋本 博文 兼) 営業部長 垣内 成介 ITSS連携 古性 和義
---	---	---	--	---	---	--	--

**本社**

<b>特別技術顧問</b> 木谷 強 企画推進担当 川村 英二、統括部長 廣瀬 尚三、副統括部長 谷口 達樹、技術指導 山内 宗、営業担当 石森 進、谷中 章男、惠 輝之、下野 修	<b>先進技術研究開発統括部</b> <略称: ATRD> (Advanced Technology R&D Administration) 統括部長 廣瀬 尚三、副統括部長 谷口 達樹、技術指導 山内 宗、営業担当 石森 進、谷中 章男、惠 輝之、下野 修
---	--

<b>製品技術研究開発本部</b> <略称: APRD本部> (Advanced Product Technology R&D Div.) 本部長 川崎 辰吾 副本部長 梶原 信樹	<b>AIネイティブ情報技術開発本部</b> <略称: AITD本部> (AI Native Information Technology Development Div.) 本部長 笠原 貴洋、副本部長 木村 浩之、本部長補佐 惠 輝之	<b>フィジカルAI応用システム開発本部</b> <略称: APAD本部> (Applied Physical AI System Development Div.) 本部長 谷口 達樹、副本部長 江口 斗、本部長補佐 山本 武史、北木 孝明、松尾 幸治	<b>AID文推進部</b> (AI/DX推進サービス) <略称: ITSS_A> 本部長 古性 和義、副本部長 黒田 雅仁	<b>金融SS本部</b> <ITSS_FF> (Financial ITSS Div.) 本部長 古性 和義、副本部長 黒田 雅仁	<b>社会公共SS本部</b> <略称: ITSS_S> (Social & Public Infra ITSS Service Div.) 本部長 坂本 一彦、副本部長 米村 隆治、本部長補佐 郡司 珠希
--	---	---	---	--	---

<b>技術開発1部</b> (QC対応基礎力研究) <AQR> 部長 鹿間 章宏 部長補佐 江河 大輝	<b>技術開発2部</b> (自律移動制御) <AMR> 部長 川崎 辰吾 副部長 松本 茂樹	<b>AIT開発1部</b> (N社向け先進技術開発) <ASN> 部長 笠原 貴洋 副部長 松本 大輝	<b>AIT開発2部</b> (AI-AGENT技術開発) <ASA> 部長 川又 正武 部長補佐 幸山 侑磨	<b>AIT開発3部</b> (情報向けITSS) <ASR> 部長 磯川 優介 部長補佐 近藤 弘明	<b>AIT開発4部</b> (AIネイティブ導入推進) <ASI> 部長 笠原 貴洋 副部長 井上 和彦	<b>APA開発1部</b> (T社応システム開発) <AST> 部長 北木 孝明 副部長 安田 晴皇	<b>APA開発2部</b> (機械知能化技術開発) <ASC> 部長 山本 武史 副部長 橋田 裕樹	<b>APAトヨタ開発部</b> (T社向け先進技術開発) <ATD> 部長 江口 斗 副部長 近藤 高志	<b>APA関西開発部</b> (地域対応先進技術開発) <AKD> 部長 松尾 幸治 部長補佐 小安 達哉	<b>☆社内外内職連携担当</b> <SSA> 本部長 雄二	<b>FISサービス部</b> (金融システム開発) <SSF> 部長 黒田 雅仁 部長補佐 森田 崇士	<b>SISサービス1部</b> (ビジネス基礎構築) <SSP> 部長 高田 陽平 副部長 田村 涼子	<b>SISサービス2部</b> (テレコム基礎サービス) <SSC> 部長 象井 良介 部長補佐 石川 寛
--	--	---	--	--	--	--	--	--	---	--------------------------------------	---	---	---

要員数 11 <b>AQR1室</b> <応用技術サービス> Block Chain等 データベース> 室長 鹿間 章宏 PL 井上 睦生	要員数 15 <b>AMR1室</b> <SLAM 技術> 応用製品開発> 室長 松本 大輝 TL 浅見 祐一 SS 山本 由希 SE 古賀 由希 マガレット	要員数 39 <b>ASN1室</b> <先端技術サービス 技術革新向け支援> 室長 池村 拓巳 SA 渡部 順平 SS 吉田 亙騎	要員数 24 <b>ASA1室</b> <生成AI開発環境整備/ AI AGENT > 室長 川又 正武 SA 市川 智大 SA 黒田 侑磨 TL 黒田 周祐 TL 若松 直花 TL 吉川 翔也 TL 沖田 拓之進 SE 相馬 真治	要員数 16 <b>ASR1室</b> <NII<学術管理系、NII<学術管理系、オープン/インテリジェント/ウェブ/プラットフォーム/WEKO開発保守> 室長 磯川 優介 PL 近藤 弘明 TL 宮地 亨輔 SE 黒田 智大 <NII<学術管理系、オープン/インテリジェント/ウェブ/プラットフォーム/WEKO開発保守> TL 近藤 芳徳 SE 池田 悠太	要員数 2 <b>ASI1室</b> <AI技術教育センター> 室長 川又 正武 TL 黒田 周祐	要員数 22 <b>AST1室</b> <車載映像AIシステム> 室長 安田 晴皇 TL 湯水 智仁 TL 山内 裕太 TL 若松 直花 TL 張 祖涛	要員数 26 <b>ASC1室</b> <ロボット、自律移動技術> 室長 橋田 裕樹 PL 磯川 優介 SE 長瀬 玲水 TL 山門 里樹 TL 岡部 凱 SE 金子 拓輝 SE 服部 亜佑香 SE 柿沼 ひろ SE 池田 諒佑 SE 鈴木 宗敬	要員数 42 <b>ATD1室</b> <AI技術開発 画像/動画/CAE連携> 室長 江口 斗 SE 山本 夏実 SE 河合 卓一 SE 馬場 翔也 <b>ATD2室</b> <T社内課題解決 CASEデータ分析> 室長 津嘉山 寛弥 TL 山田 浩太 SE 横井 佑歩 SE 星野 創	要員数 20 <b>AKD1室</b> <知能ロボット/画像SLAM ATRDサービス連携> 技術指導 松尾 幸治 室長 小安 達哉 SA 山本 勝太 SE 秋吉 康平 <b>AKD2室</b> <次世代AI/NEO/R.C. 高活エッジ処理> 室長 佐伯 守人 TL 佐々木 翔一 SA 劉 子楓 SE 中脇 誠	要員数 28 <b>SSA1G</b> <AIネットワーク/ITSS 特別先導支援 特別プロジェクトTeam> NTD/DG、AINEC 参加 LDR 井上 和彦 SA 松本 智也 SA 物部 恭史 SA 丹野 駿 SA 川端 一輝 <b>SSA2G</b> <基幹システムDX推進 基幹システム再構築> 室長 佐伯 守人 TL 佐々木 翔一 SA 劉 子楓 SE 中脇 誠 <b>SSA3G</b> <レコ-車両管理システム/レコ-によるAP開発> GM 原 進 AM 上田 哲也 SE 齋藤 悠佑 SE 柳原 康宏	要員数 43 <b>SSF1G</b> <地銀系SIサービス> GM 小池 道生 AM 前田 紗希 <b>SSF2G</b> <レコ-営業店開発> GM 森田 崇士 AM 中村 聡 PL 庄司 了 SA 小林 直史 <b>SSF3G</b> <次期営業店開発支援> GM 黒田 雅仁 AM 佐藤 悠 SA 後藤 念 SE 和泉 光 <b>SSF4G</b> <次世代システム開発 為替システム担当> GM 藤井 豪士 SA 戸田 達也 SA 安谷 隼 人 <b>SSF5G</b> <同業他社協業推進 電力企業 調達ERP刷新> GM 倉田 実 TL 丸井 郁大	要員数 23 <b>SSP1G</b> <GAI A開発> ~企業基盤システム開発 承認申請、認可 (Service Now PFM) GM 田村 涼子 PM 川原 圭史 PL 小林 恵一 PL 飯田 健介 PL 藤田 雅子 PL 加藤 馨 SE 山井 拓真 (開発支援グループ) PM 伊庭 真之介 PL 北野 啓 SA 橋竹 良一 SE 高橋 一鳳	要員数 44 <b>SSC1G</b> <レコ-サービス技術支援 開発、運用保守> (構造改修グループ) GM 黒田 博 AM 伊藤 三四郎 SA 野口 大輔 (ポータルグループ) SA 蔵 苗 <b>SSC2G</b> <レコ-サービス技術支援> GM 石川 寛 AM 菊池 光季 SA 小橋 ひろ美 (会員基盤刷新グループ) PM 郡司 珠希 SA 小橋 輝己 SA 田中 隆一 SA 鈴木 康太 SA 地原 照紀 SE 松下 雅 <b>SSC3G</b> <レコ-サービス技術支援 会話応答システム改良> GM 小橋 輝己 SA 田村 雅人 SE 小野 駿介 <b>SSC4G</b> <社会公共ITサービス 国保システム改良保守> GM 石毛 広明 SA 片寄 真人
---	---	---	--	--	---	---	---	--	---	---	--	---	--

経営管理本部 参与 西島 昭佳 本部長 石和 田 雄二、副本部長 川添 浩史(全般)、小山 紀之(事業企画、人事教育、CIT) 本部長補佐 太田 ゆう子(経理、財務)、岩崎 伸一(法務、監査)、椎名 千恵(福利厚生、ITK委員) 要員数 3

Table with 4 main columns: 経営企画部 (部長 石和 田 雄二), 総務経理部 (部長 草野 和寛), 人事教育部 (部長 安田 明彦), CIT部 (部長 岩崎 絵里子), 営業管理室 (部長 渡部 憲太郎), 本社ITSS事業推進部 (部長 川添 浩史), 支社 事業推進 (各支社部長/副部長)

本社 ITソリューションサービス統括部 (略称 ITSS\_BD) (IT Solution Service Business Division) 統括部長 石和 田 雄二、副統括部長 川添 浩史、坂本 一彦

社会公共SS本部 (S&I Infra ITSS) 本部長 坂本 一彦 副本部長 米村 周治 技術開発ソリューションサービス本部 (略称 ITSS\_E) (Engineering & Manufacturing IT Solution Service Div.) 本部長 榎村 伸久、副本部長 寺尾 雄太、本部長補佐 菊池 徹

Table with 12 columns representing different ITSS departments: S I Sサービス3部, E I Sサービス1部, E I Sサービス2部, E I Sサービス3部, B I Sサービス1部, B I Sサービス2部, T I Sサービス1部, T I Sサービス2部, T I Sサービス3部, T I Sサービス4部, T I Sサービス5部, K I Sサービス1部, K I Sサービス2部, K I Sサービス3部

Main grid of 12 columns and 12 rows of department boxes. Each box contains department name, key projects, and staff names. Columns include SSS1G to SSS5G, SSR1G to SSR4G, SSE1G to SSE4G, SSM1G to SSM4G, SSB1G to SSB3G, SSL1G to SSL3G, TSS1G to TSS3G, TDA1G to TDA3G, TES1G to TES3G, TCS1G to TCS3G, TBS1G to TBS3G, KPT1G to KPT3G, KTS1G to KTS4G, KRS1G to KRS5G.

組織編成 6月1日 改訂